

第 61 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 最優秀賞選評

審査委員 福井 通

この施設は大和駅から東に約600m、プロムナード沿いに立地する多世代型の文化複合建築である。一つの施設に様々な年代の市民が集まれば、世代や国籍を超えた多様な交流が生まれる事をコンセプトとしている。地上6階、地下1階、延べ面積約26,000㎡の立体的空間内に、図書館、芸術文化ホール、屋内こども広場、生涯学習センターを中心に、商業施設、ギャラリー、スタジオ等の複合的なプログラムが、建築計画的に快適なアクティビティ空間としてデザインされた点が高く評価され、最優秀賞に選定された。

全体の空間構成は、北側のプロムナードに面してエントランス空間をとり、西側に図書館、小ホール、ギャラリー、生涯学習センター、屋内子供広場等の複合施設を配し、東側にメインホールを並置している。

プロムナードからの外観デザインは「緩やかなランドマーク」をイメージし、段状にセットバックさせた立体的屋上庭園を構成している。圧迫感を避けたボリューム構成、基壇部の白色レンガタイルと段状屋上庭園の柔らかな緑が相まって、明るい雰囲気の世界建築を構築できている。

内部空間の特徴は、立体的動線に沿って様々な世代に対応した「身近に本がある空間」がデザインされている。1階エントランスには新刊本や雑誌、奥に小ホールとギャラリー、2階吹き抜け周りには政治、経済、社会問題に関する資料が並ぶ図書空間と交流ラウンジ、3階は乳幼児・児童向けこども図書館と広場、4階はくつろぎながら本に親しむ健康都市図書館、5階は落ち着いた雰囲気の大人用図書館、最上階の6階は生涯学習センターとなっている。

隣接する約1,000席のメインホールは、BOX IN BOX 構造を使用し航空機騒音と地下鉄振動に対処した遮音防振構造を実現するなど、施工技術と大ボリュームのホール空間も素晴らしいが、メインホールと図書館側建物との間の空間処理を含め、建物全体の空間構成に内部と外部の隙間空間：「中間領域」を取り入れた新たな複合空間がデザインされていれば、さらに素晴らしい空間となっていたであろう。